

## 仙台市との基本協定締結式における原田社長挨拶

今回の協定は、仮想発電所の技術を活用し、仙台市さまとともに、地域の防災力強化や環境負荷の低減を目指していくものであり、大変意義のあるものと考えております。

これまで、協定締結に向けてご尽力いただきました関係者の皆さまに、この場をお借りいたしまして、心から御礼申し上げます。

「仮想発電所」とは、お客さまが保有している発電設備や蓄電池、電気自動車など、エネルギーを生み出したり、蓄えたりする設備を、I o Tなどの新たな情報技術を用いて遠隔制御し、生み出されたエネルギーを集約することで、あたかも一つの発電所のように機能させることであります。

当社では、こうした仮想発電所の技術を用いて、地域やお客さまの所有している設備の有効活用を図ったり、当社の需給バランス調整機能として活用したりするための実証プロジェクトを、この4月から開始しております。

今回の取り組みでは、仙台市さまが指定避難所などに導入している複数の太陽光や蓄電池を統合し、遠隔監視や最適制御を行うことで、太陽光発電の余剰電力の有効活用や、蓄電池の長寿命化などを図る仕組みの構築などに向けた、検証を行うこととしております。

本格的な検証に取り組むのは、これからとなりますが、当社といたしましては、仙台市さまの目指す「防災環境都市」の実現に向けたまちづくりに、いささかなりともお役立ちできればと、期待しているところです。

最後になりますが、当社といたしましては、地域に“よりそう”企業として、引き続き、様々な取り組みを通じて、地域やお客さまのご期待に、しっかりとお応えしてまいりたいと考えております。

以 上